



支部だより

第 90 号

編集・発行

〒464-0039

名古屋市千種区日和町2-18

名古屋地方気象台内

日本気象学会中部支部

電話 052-751-5124

2021.06.30

目次

・ 2021 年度（令和 3 年度）の始まりにあたって	1
・ 中部支部第 24 期役員の補充	2
・ 2021 年度（令和 3 年度）中部支部総会のお知らせ	3
・ 2020 年度（令和 2 年度）中部支部研究会・気象サイエンスカフェの開催報告	8
・ 事務局からのお知らせ	9

■2021 年度（令和 3 年度）の始まりにあたって

日本気象学会中部支部長 中三川 浩

このたび支部長に就任しました名古屋地方気象台の中三川です。微力ながら中部支部の発展に尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、去年の天候を振り返りますと、2020 年の日本の年平均気温は 1898 年の統計開始以来、2019 年を上回り最も高くなりました。また、今年の 3 月も全国の気象官署 153 地点のうち、131 地点で月平均気温の高い方からの 1 位の値を更新しました(1 位タイ記録含む)。このように地球温暖化が進展する中、昨年 7 月には「令和 2 年 7 月豪雨」が発生し、熊本県を中心に甚大な被害が出たほか、東海地方では岐阜県で大雨特別警報が出されるなど、近年は毎年のように豪雨災害が発生しています。

最近では、こうした集中豪雨など極端現象が、人間活動による気候変動によりその発生確率や強度がどの程度影響されたかを定量的に評価するイベント・アトリビューションという技術を用いた研究が盛んにおこなわれています。また、集中豪雨は線状降水帯によりもたらされることが多いことがわかってきていますが、そのメカニズムの解明や予測の改善にむけた研究や開発は緒についたところです。集中豪雨に対する社会の関心は、地球温暖化によりこうした現象がどう変化するのか、それにどう適応していくべきか、また、メカニズムの解明や数値予報技術の発展を通じた予測精度の改善やわかりやすい防災情報の提供であると感じています。こうした社会の期待や要請に対して気象庁はもちろん、気象学会の活動を通して、応えていく必要があると思います。

今年の秋季大会は三重大学で開催され、現在、実行委員会を中心にその準備を進めています。大会でのシンポジウムでは、地球温暖化に伴う気候変化や豪雨豪雪等最先端の科学知見を地域と協働で持続可能な社会への転換に活かす方策をテーマとして、検討を進めています。

中部支部では、皆様の学会活動が円滑に行われるよう、また、新型コロナウイルス感染対策も踏まえたオンラインでの活動も併用しながら、事業を進めてまいります。皆様のご理解・ご協力方、よろしくお願いいたします。

■中部支部第24期役員の補充

2021年4月1日付の人事異動により、東海地区から東田進也理事(支部長)および五味孝夫幹事が転出、川嶋徹理事が定年退職のため退任しました。日本気象学会中部支部選挙細則第4条の規定に従い、後任役員として、中三川浩会員を東海地区理事(支部長)、原基会員を幹事に推薦、坪木支部長代理により承認されました。その後、川嶋徹理事の後任に吉村香会員を推薦、中三川支部長により承認されました。任期はいずれも2022年6月30日までです。

新	旧
東海地区常任理事 中三川 浩 (名古屋地方気象台)	東田 進也(名古屋地方気象台)
東海地区常任理事 吉村 香 (津地方気象台)	川嶋 徹 (岐阜地方気象台)
幹事 原 基 (名古屋地方気象台)	五味 孝夫(名古屋地方気象台)

以上の理事、幹事の補充により、現在の理事会構成メンバーは以下のとおりとなります。

東海地区常任理事・支部長	中三川 浩	(名古屋地方気象台)
東海地区常任理事	坪木 和久	(名古屋大学)
東海地区常任理事	立花 義裕	(三重大学)
東海地区常任理事	田口 正和	(愛知教育大学)
東海地区常任理事	吉村 香	(津地方気象台)
東海地区常任理事	槇野 泰夫	(日本気象予報士会東海支部)
北陸地区理事	安永 数明	(富山大学)
長野・静岡地区理事	轡田 邦夫	(東海大学)
会計監査	川村 文芳	(日本気象協会中部支社)
幹事	原 基	(名古屋地方気象台)
幹事	渡辺 記秀	(名古屋地方気象台)
幹事	民田 晴也	(名古屋大学)

■2021 年度（令和 3 年度）中部支部総会のお知らせ

1. 日時：2021 年 7 月 29 日（木）15 時 30 分
2. 場所：名古屋地方気象台会議室
3. 総会次第
 - (1)開会の辞 (2)支部長挨拶 (3)議長選出 (4)出席者・委任状報告
 - (5)議案審議 (6)議長解任 (7)閉会の辞

ご欠席の場合、同封の総会参加票にご記入・署名の上、ご返送をお願い致します。
議案の番号は総会参加票に示された番号です。議案の詳細を以下に示します。

総会議案

議案（1）2020 年度（令和 2 年度）中部支部事業報告

- 5 月 15 日 第 24 期役員選挙告示。立候補締切(5 月 29 日)。投票締切(6 月 24 日)。
- 6 月 22 日 支部常任理事会を開催しました。第 23 期役員補充、総会議案の 2019 年度事業報告・会計監査報告、および 2020 年度事業計画・予算案を審議しました。
- 6 月 25 日 第 24 期中部支部役員選挙開票（名古屋地方気象台会議室。開票：選挙管理委員会。立会：渡辺幹事）。
- 6 月 30 日 支部だより第 89 号の発行。支部長挨拶、第 23 期役員補充、支部総会案内と議案、公開気象講座の次年度延期、支部研究会の開催案内を掲載しました。
- 8 月 12 日 支部理事会および支部総会を開催しました。2019 年度の事業報告、会計監査報告および 2020 年度の事業計画案、予算案について承認されました。また、日本気象学会 2021 年度秋季大会の大会実行委員会の立ち上げが承認されました（委員会は支部役員およびホスト大学の三重大学の会員により構成）。
- 支部総会では、賛成多数で議案が可決されました。
- 11 月 29 日 第 19 回気象サイエンスカフェ in 名古屋（オンライン）を開催。加藤輝之氏（気象大学校教頭）を講師に招き、「近年の極端な気象現象の変化と集中豪雨をもたらす線状降水帯」と題して、ご講演いただきました(参加者 67 名)。
- 12 月 15 日 中部支部研究会（オンライン）を開催しました(発表件数 24、参加者 64 名)。
～16 日 川口航平さん「マルチパラメータ・フェーズドアレイ気象レーダデータに基づく孤立積乱雲の内部構造の時間変化」に支部長賞を授与しました。
- 2 月 4 日 第 1 回日本気象学会 2021 年度秋季大会実行委員会を開催しました。開催期間と形態（オンラインと対面のハイブリット）について審議しました。
- 2 月 7 日 第 20 回気象サイエンスカフェ in 名古屋（オンライン）で開催。清水雅仁氏（中部電力株式会社）を講師に招き、「雷を知ること被害は防げる」と題して、ご講演いただきました（参加者 58 名）。
- 3 月 3 日 第 2 回日本気象学会 2021 年度秋季大会実行委員会を開催、大会告示内容を審議、支部理事により承認されました。

議案 (2) 2020年度 (令和 2 年度) 中部支部会計報告

2020年度 (令和2年度) 中部支部予算と実行額 (2021年3月末日現在)

(2020年4月1日～2021年3月31日)

単位: 円

	予算額	実行額	残額	備考
I 収入の部				
事業活動収入				
本部交付金	682,400	682,400		
公開講座補助金	0	0		
普及啓発活動への助成	60,000	60,000		
事業収入				
公開講座参加費	0	0		
雑収入				
預金利子	5	5		
その他	0	0		
事業活動収入計 (1)	742,405	742,405	0	
II 支出の部				
事業活動支出				
(事業費支出)				
支部だより	170,000	68,388	101,612	注1
支部だより印刷費	80,000	27,500	52,500	
支部だより編集費	0	0	0	
支部だより発送費	90,000	40,888	49,112	
ホームページ運営費	0	0	0	
サーバー借料	0	0	0	
公開講座開催費	0	0	0	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2021年度に振替開催のため予算計上なし
会場費	0	0	0	
運営費 (印刷費含む)	0	0	0	
講師謝金・旅費	0	0	0	
シンポジウム参加・旅費	0	0	0	
支部研究会開催費	280,000	10,410	269,590	注2
会場費	30,000	0	30,000	
運営費	50,000	10,410	39,590	
要旨集印刷費	0	0	0	
参加旅費	200,000	0	200,000	
その他事業費	0	0	0	
サイエンスカフェ (3回開催)	69,000	8,000	61,000	注3
1) 東海地区内 (2回)	36,000	8,000	28,000	
チラシ・資料印刷	6,000	0	6,000	
講師謝金	20,000	8,000	12,000	
講師交通費	10,000	0	10,000	
2) 中部地区内 (1回)	33,000	0	33,000	
チラシ・資料印刷	3,000	0	3,000	
講師謝金	10,000	0	10,000	
講師交通費	20,000	0	20,000	
振込み手数料	0	0	0	
(管理費支出)				
総会・理事会費	103,000	46,656	56,344	
総会資料印刷・発送費 (往復はがき)	50,000	25,202	24,798	一部、支部だより発送費に計上
理事会開催費	3,000	9,714	-6,714	SIMカード購入
理事会交通費	50,000	11,740	38,260	注4
秋季大会実行委員会交通費 (3回)	30,000	420	29,580	注5
役員選挙費	77,000	67,336	9,664	
選挙公報・投票用紙印刷・発送費	75,000	65,336	9,664	
選挙管理委員会費	2,000	2,000	0	
事務費	10,000	21,800	-11,800	
通信運搬費	5,000	7,800	-2,800	
消耗品費	5,000	14,000	-9,000	発送用封筒角2 (500枚)
労務費	0	0	0	
その他支出 設備費	0	0	0	
事業活動支出計 (2)	739,000	223,010	515,990	
III 予備費				
予備費支出計 (3)	129,844	0	129,844	
本部交付金留置き	0	0	0	
本部交付金追加 (4)	0	0	0	
当期収支差額 (A) = (1) + (4) - (2) - (3)	-126,439	519,395		
前期繰越収支差額 (B)	126,439	126,439		
次期繰越収支差額 (A) + (B)	0	645,834		

注1: 新型コロナウイルス感染拡大により掲載記事が乏しく90号は未発行 (支部MLを活用して情報配信)

注2: オンライン開催のため、会場費、参加旅費は未使用。Zoom大規模meetingライセンス料を運営費から支出。

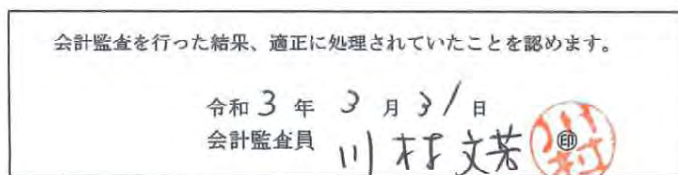
注3: オンラインで2回開催。

注4: 第1回常任理事会 (対面開催) に交通費を使用。第1回理事会はオンライン開催で未使用。

注5: オンラインで2回開催。事務局打合せに1回交通費を使用。

議案（3）2020 年度（令和 2 年度）中部支部会計監査報告

2020 年度中部支部会計報告について、川村会計監査より適正に処理されている旨の報告がありました。



支部交付金残高

645,834

議案（4）2021 度（令和 3 年度）中部支部事業計画

- 5 月 24 日 第 1 回支部常任理事会の開催。第 24 期役員補充、2020 年度事業報告・会計報告、2021 年度事業計画・予算案の決定。
- 6 月 30 日 支部だより第 90 号の発行。支部長挨拶、第 24 期役員補充、支部総会の案内と議案、日本気象学会 2021 年度秋季大会の開催案内を掲載、総会参加票を同封して会員の皆様に発送。
- 7 月 29 日 第 1 回支部理事会および支部総会の開催。
- 9 月上旬 公開気象講座（オンライン）の開催。
- 11 月上旬 支部だより第 91 号の発行。支部総会報告、公開気象講座および気象サイエンスカフェの開催報告、日本気象学会秋季大会の開催案内を掲載予定。
- 12 月上旬 日本気象学会秋季大会を三重大学にて開催（オンラインと対面のハイブリット開催）。

この他、

- ・気象サイエンスカフェを名古屋で 2 回（10 月と 2 月）、名古屋以外の中部支部内で 1 回の開催を計画しています。
- ・日本気象学会 2021 年度秋季大会の準備のため、適宜、大会実行委員会を開催します。

議案 (5) 2021年度 (令和3年度) 中部支部予算案

2021年度 (令和3年度) 収支予算書 (案)

(2021年4月1日～2022年3月31日)

単位: 円

	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 収入の部				
事業活動収入				
本部交付金	683,600	682,400	1,200	注1
公開講座補助金	0	0	0	
普及啓発活動への助成	60,000	60,000	0	注2
事業収入				
公開講座参加費	0	0	0	
雑収入				
預金利子	5	5	0	
その他	0	0	0	
事業活動収入計 (1)	743,605	742,405	1,200	
II 支出の部				
事業活動支出				
(事業費支出)				
支部だより	170,000	170,000	0	No90, No91
支部だより印刷費	80,000	80,000	0	
支部だより編集費	0	0	0	
支部だより発送費	90,000	90,000	0	
ホームページ運営費	0	0	0	
サーバー借料	0	0	0	
公開講座開催費	28,000	0	28,000	注3
公開講座会場費	0	0	0	
公開講座運営費 (印刷費含む)	10,000	0	10,000	
公開講座講師謝金・旅費	18,000	0	18,000	
シンポジウム参加・旅費	0	0	0	
支部研究会開催費	0	280,000	-280,000	注4
支部研究会会場費	0	30,000	-30,000	
支部研究会運営費	0	50,000	-50,000	
支部研究会講演予稿集印刷費	0	0	0	
支部研究会参加旅費	0	200,000	-200,000	
その他事業費	0	0	0	
サイエンスカフェ (3回開催)	69,000	69,000	0	
1) 東海地区内 (2回)	36,000	36,000	0	
チラシ・資料印刷	6,000	6,000	0	
講師謝金	20,000	20,000	0	
講師交通費	10,000	10,000	0	
2) 中部地区内 (1回)	33,000	33,000	0	
チラシ・資料印刷	3,000	3,000	0	
講師謝金	10,000	10,000	0	
講師交通費	20,000	20,000	0	
振込み手数料	0	0	0	
(管理費支出)				
総会・理事会費	68,000	103,000	-35,000	
総会資料印刷・発送費 (往復はがき)	50,000	50,000	0	
理事会開催費	3,000	3,000	0	
理事会交通費	15,000	50,000	-35,000	
秋季大会実行委員会交通費 (2回実施)	20,000	30,000	-10,000	
役員選挙費	0	77,000	-77,000	
選挙公報・投票用紙印刷・発送費	0	75,000	-75,000	
選挙管理委員会費	0	2,000	-2,000	
事務費	36,400	10,000	26,400	
通信運搬費	31,400	5,000	26,400	注5
消耗品費	5,000	5,000	0	
労務費	0	0	0	
その他支出 設備費	0	0	0	
事業活動支出計 (2)	391,400	739,000	-347,600	
III 予備費				
予備費支出計 (3)	998,039	129,844	868,195	
本部交付金留置き	0	0	0	
本部交付金追加 (4)	0	0	0	
当期収支差額 (A) = (1) + (4) - (2) - (3)	-645,834	-126,439		
前期繰越収支差額 (B)	645,834	126,439		
次期繰越収支差額 (A) + (B)	0	0		

注1: 1,200円×278名+350,000円で計上 (個人会員数278名: 令和3年4月現在)

注2: サイエンスカフェ等1件につき、20,000円が交付される。サイエンスカフェ3回分を計上。

注3: オンライン開催を予定。zoom大規模meetingライセンス料及び講師謝金を計上。

注4: 今年度は、秋季大会を開催するため実施しない。

注5: 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン会議のライセンス料を計上。

■中部支部研究会の報告

令和2年度の支部研究会は12月15日（火）～16日（水）にオンラインにて開催しました。当初、名古屋大学での開催予定でしたが COVID-19 感染拡大防止のためオンライン開催となりました（発表24件、参加者64名）。講演・聴講の皆様のご協力により、対面開催と遜色のない研究集会ができました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。

研究集会には完成度の高い報告が集まり、活発な議論がありました。支部長賞の対象者（研究を本務としない気象学会員）による22件の口頭発表を審査、選考を行い、その結果、最も優れた研究発表として、名古屋大学の川口航平さんに支部長賞が贈呈されました。

【受賞理由】

『川口航平さんは最新鋭のレーダであるマルチパラメータフェーズドアレイ気象レーダ（MP-PAWR）により観測された孤立積乱雲について、その内部構造と時間発展を詳細に解析した。MP-PAWRの高速に観測できる特性を生かして、対流セル内に降水コアを特定し、MP-PAWRデータの粒子判別により、あられの領域を同定など積乱雲内の雲物理学的特性をあきらかにした。さらに別のPAWRを組み合わせて、積乱雲の流れの場を解析し、鉛直速度とセル内の粒子の時間変化を対応づけることで、新たに対流セルのステージ分けを、運動学的だけでなく雲物理学的にも行った。さらに降水コアの初期はあられ粒子が主要な成分で、その融解により降水コアの下降が起こったことを示した点は、孤立積乱雲の詳細な時間発展の解明であるとともに、強雨の発生予測にも寄与すると言える。発表においては、問題設定とこれまでの研究に対する位置づけ、結果の新規性・独創性などが明確に示されており、研究結果の説明も論理的で分かりやすいものであった。質疑にも的確に回答し、発表内容も深く検討された完成度の高いものであった。以上の理由から、川口航平さんを2020年度日本気象学会中部支部長賞に選定した。』



高橋教授（指導教員） 川口さん

（撮影：名古屋大学宇宙地球環境研究所）

今年度は日本気象学会秋季大会（三重大学にてオンラインと対面のハイブリット開催）を中部支部が担当するため、令和3年度支部研究会の開催はありません。支部長賞はございませんが、日頃の研究成果公表の場に秋季大会をお選びいただけますと幸いです。

（中部支部事務局）

■気象サイエンスカフェの報告

気象サイエンスカフェは日本気象予報士会との共催イベントです。中部支部では、例年、名古屋市内で2回、名古屋を除く中部支部内で1回の計3回を開催しています。2020年度はCOVID19蔓延防止のため、名古屋開催のサイエンスカフェをオンライン開催しました。

◆第19回気象サイエンスカフェ in 名古屋 Zoom

日 時 : 2020年11月29日(日) 午後3時から午後4時30分

講 師 : 気象庁 気象大学校教頭 加藤輝之 氏

テーマ : 近年の極端な気象現象の変化と集中豪雨をもたらす線状降水帯

参加者 : 67名

今回は、コロナ禍により、初めてのオンライン開催となりました。参加募集開始から1週間で定員を超過することとなり、テーマによる関心の高さに加え、オンラインのため遠方からでも参加できることも重なり、盛況な開催ができました。

講師からは、①大雨災害・事例数の推移と水蒸気の関係について、自然災害による人的被害・線状降水帯による災害、積乱雲の発生・発達条件、気温上昇と大雨の関係の解説があり、②集中豪雨・線状降水帯については、気象レーダーの近代化、大雨の発生分布と線状の割合、線状降水帯の構造と形成メカニズムの説明、③線状降水帯が発生しやすい好条件、④令和2年7月豪雨の特徴の内容で講演されました。

興味深いテーマのため、質問などで予定時間を超過し、また、ほとんどの方が最後まで参加していただき、満足度の高いサイエンスカフェとなりました。

(日本気象予報士会東海支部)

◆第20回気象サイエンスカフェ in 名古屋 Zoom

日 時 : 2021年2月7日(日) 午後3時から午後4時30分

講 師 : 中部電力株式会社 技術企画室企画グループ 清水雅仁 氏

テーマ : 雷を知ることで被害は防げる

参加者 : 58名

オンライン開催であり、全国から大勢の方々が参加頂きました。講演の内容は、人類の雷への関わりの歴史から始まって、雷発生のしくみや放電のプロセス、そして落雷の影響や被害の防ぎ方などでした。全国的に見ても、岐阜県的美濃地方や愛知県北部で落雷が特に多いということが紹介され、身近な話題として多くの参加者が興味を示していました。

電力会社としての立場から、送電線や配電線への落雷の影響を防ぐ技術の進歩についてのお話もあり、近年は落雷による大規模な停電がきわめて減少していることが思い出されました。多くの質問が寄せられ、予定時間を超過する盛り上がりとなり、満足度の高いサイエンスカフェとなりました。

(日本気象予報士会東海支部)

■事務局からのお知らせ

◆日本気象学会 2021 年度秋季大会のお知らせ

2021 年度の秋季大会がオンラインと対面のハイブリッド形式により、三重大学で開催されます。12 月 2 日～3 日はオンラインポスター、12 月 6 日～8 日に対面形式の口頭発表を予定しています。詳細は秋季大会 Web page をご覧ください。

◆公開気象講座（オンライン）のお知らせ

日本気象学会秋季大会を中部支部内で開催する年は、公開気象講座および支部研究会を開催しておりませんが、今年度は昨年度に中止となった公開講座を順延、9 月上旬にオンライン開催（テーマ：雪）を計画しています。詳細が決まりましたら、支部 Web およびメーリングリストにて、皆様にお知らせいたします。

◆事務局からのお願い

日本気象学会本部および中部支部から各種案内を電子メールにて配信しております。ご案内が届いていらっしゃらない会員の皆様、ご面倒をおかけいたしますが、
日本気象学会 会員情報変更ページ

<https://www.metsoc.jp/membership-2/update-2>

から最新の電子メールアドレスのご登録をお願いいたします。

